

# まちなかでの配慮

JR浜松駅周辺をはじめとするオフィスビルや商業施設・高層マンションが建ちならぶ市街地は、活発な文化活動や商業活動が期待されており、それぞれに趣向を凝らした魅力的で個性的な表現や、にぎわいの演出が推奨される地域であるといえます。

それと同時に、買い物客や施設利用者、そこで働く人々や居住者など、多くの人たちが行き交う公共性の高い地域でもあります。

独自の魅力やにぎわいの創出を目指しながらも、周辺との調和に配慮し、まち並みとして地域の顔となるような風格と魅力のある景観を形成することが望めます。



## 配置

道路等の公共空間に面する部分は、外壁面を後退したり周辺建物と合わせたりすると、見通しが良く歩きやすいまち並みになります。

それにより、歩行者の回遊性が向上し、商店街などでは、活気と魅力のあるまち並み景観を形成することができます。

## ボリューム感

極端に目立ったり、逆に単調なデザインとなったりすると、圧迫感や不快感を与え、まち並みの連続性を妨げます。高さや幅のバランスを周囲と調和させ、外壁面のデザインや素材を工夫すると、心地よいまち並みになります。

## 色彩

建物の色彩は、周囲の色合いに配慮すると、まち並みの統一性が保たれます。演出やアピールのために明るく鮮やかな色を使う場合は、低層部を中心に使用することで、歩く人にとって目をひきやすくなり、まち並みとしてのにぎわいの創出につながります。

## 歴史的なもの

歴史ある施設は街にとって大きな財産です。建て替える場合には、可能な限り保存・継承し、街の記憶をとどめる配慮が望まれます。また、隣接する建物についても、その雰囲気や調和に配慮することで、まち並みの一体感が生まれます。



# 住宅地や郊外での配慮

店舗等と住宅が混在している地域や郊外の住宅地などは、様々な景観を有した生活に密着した場所であり、生活環境の向上や魅力的なまちづくりが推奨される地域であるといえます。

地域に調和した落ち着いたまち並みをつくるために、周囲の建物がどのような形状や規模で建っているのかを、より注意深く確認することが求められます。

また、周辺の自然景観に対する眺望や、その地域を周囲から見たときのまち並みなど、その印象を妨げないような景観を形成することが望まれます。



## 配置

低層の建物が多いまち並みの中に、大規模な建物を計画する場合には、特に注意が必要になります。道路や隣地からの後退による圧迫感の軽減や、植栽帯の設置によるゆとりへの配慮などの工夫が求められます。

## ボリューム感

ボリュームの大きな建物は、地域の雰囲気や、そこから見渡せる山並みなどの自然景観への眺望を妨げます。屋根・外壁面の形状や素材などを、可能な限り地域景観に調和させるような配慮が求められます。

## 色彩

奇抜で派手な色使いは、安らぎやゆとりが求められるこの地域にはなじみません。鮮やかさを抑えた落ち着いた雰囲気の色彩計画が重要になります。また、地域の色調を確認し、それになじませるような配慮も大切です。

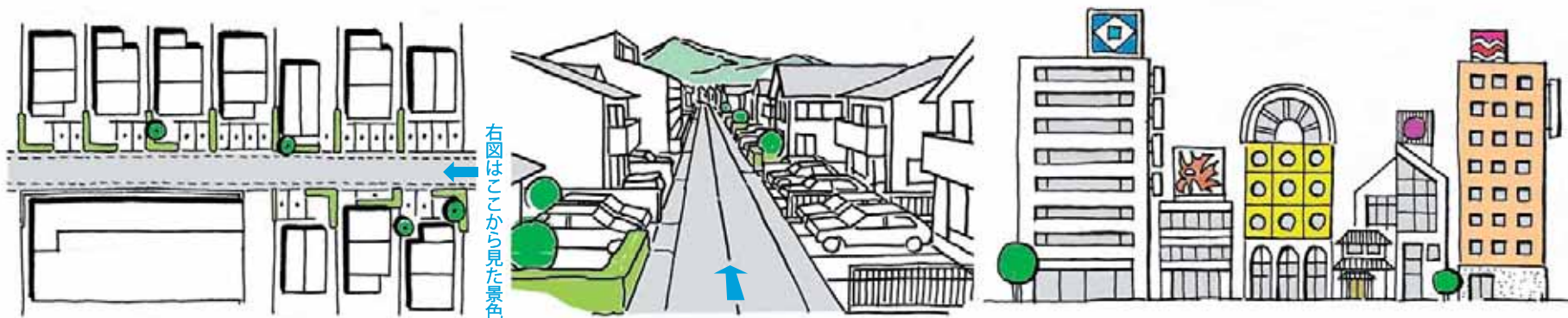
## 歴史的なもの

古い寺社・古民家などの建物や、古木などは、地域の歴史を伝える重要な要素です。その近隣で計画する場合には、そこへの眺望や雰囲気を妨げないように配慮するなど、地域の記憶を次世代に引き継ぐ努力が望まれます。





# 配置・外観への配慮



## 配置 (眺望・基調・壁面後退)

敷地の周囲を見渡して、道路や公園などの公共空間との関係を意識したり、周辺の建物との調和を考慮したりして、外壁面の位置を考える必要があります。例えば、道路から後退することにより、近隣への圧迫感を軽減したり、山並みなどの自然景観への見通しが確保できたりといった効果があります。また、地域の景観上重要な要素<sup>\*</sup>などを意識することにより、親しみや愛着が感じられるまち並みが形成されます。

## 外観 (形態・デザイン・色彩)

周辺建物とのボリュームや高さなどの調和を図り、落ち着いたスカイラインの形成に努めましょう。また、外観の陰影や質感、色相や明度においても隣接する建物との調和に心掛けることにより、落ち着いた風格のあるまち並み形成につながります。彩度の高い色を使用する際は、面積を抑えて建物の低層部などに効果的に使うことにより、街の魅力やにぎわいを演出しましょう。



<sup>\*</sup>神社・史跡・近代化遺産などの歴史的施設、公園・地域コミュニティ施設などの公共施設、古木や大木、並木など